



Rolls-Royce



Turbomeca
SAFRAN Group

プレスリリース

2006年10月13日

ロールス・ロイスとターボメカ社、 RTM322 エンジンの共同開発契約を更新

【英国 2006 年 10 月 9 日】民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開をするロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）と、サフラン・グループ（SAFRAN Group）傘下のターボメカ社（Turbomeca）は、ヘリコプターエンジン市場をリードする「RTM322」の共同開発契約を更新して、ジョイントベンチャーを引き続き継続することを発表しました。

RTM322 ターボシャフト・エンジンは、3 基のエンジンで稼動するアグスタ・ウェストランド社（AgustaWestland）の EH101 ヘリコプター（EH101 Merlin military helicopter）ならびに 2 基のエンジンで稼動する軍用ヘリコプター、NH90（NH IndustriesNH90）および WAH-64 アパッチ（AgustaWestland WAH-64D Longbow Apache）に搭載されています。搭載シェアとしては、NH90 フリートの 90%以上および EH101 向けには約 60%であり、英国軍戦闘用アパッチヘリコプターには全機に搭載されています。現在、確定およびオプションを含め、約 1600 基の RTM322 エンジンが NH90、WAH-64 アパッチ、ならびに EH101 向けに発注されています。

ロールス・ロイス・ターボメカ社（RRTM）の会長を務め、ロールス・ロイスのヘリコプター事業部門の社長も務めるスコット・クリスリップ（Scott Crislip）は、次のように述べました。「RTM322 は、エンジンクラスをリードする高い信頼性、安価なライフタイム・メンテナンスコスト、そして保守点検の容易さにより、顧客に真の価値を提供してきました。ロールス・ロイスとターボメカ社は、RRTM の共同開発契約を更新することによって、今後もこれまでに RTM322 を採用していただいた 13 ヶ国へのサポート体制を強化し、この共同プログラムをさらに発展させていく所存です。」

ターボメカ社のエメリック・ダーシモール会長（Emeric d'Arcimoles）は、次のように述べました。「ターボメカ社とロールス・ロイスのこの第 2 のスタートを大変喜ばしく思います。このような歴史的瞬間に立ち会うことができたことを光栄に思うと同時に、RRTM の事業が今後も順調に行くものと確信しています。」

ロールス・ロイスとターボメカ社の共同開発事業は、英国とフランスの両政府がジャギューア戦闘機／練習機の製造契約に調印をした 1965 年 5 月に始まり、同年 11 月にジャギューア機

のアドーアエンジンの供給会社選ばれました。RRTMは、共同開発契約が結ばれて1ヵ月後の1966年5月に正式に誕生しました。以来、このジョイントベンチャーは、欧州の航空産業において最も長い期間に渡り継続しています。